【学校通信】

令和2年11月27日

第17号

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西　規之

親が子どもをサポートするには（Ⅱ）～ほめる～

前号に引き続き、保護者の子どもへのサポートについて考えたいと思います。今回は「ほめ上手」です。ぜひ参考にしてください。

「ほめ上手」の親がしている3大習慣

（ダイヤモンド・オンラインより）

新型コロナウィルスの影響で、世の中が大きく変わりつつあります。そんな変化の激しい現代において「子どもに何をしてあげられるか」と悩んでいる親は多いのではないでしょうか。

１．「ほめ方」しだいで効果が変わる

人はほめられると脳の神経が刺激され、ドーパミンが放出されることで強い幸福感に包まれます。

また、1960年代、ハーバード大学の教育心理学者、ロバート・ローゼンタール教授は、教師が「君ならやればできるよ」と言うと実際に学習者の成績が伸びることを実験で明らかにし、これを「ピグマリオン効果」と名づけました。

一方で、慶應義塾大学の教育経済学者、中室牧子教授は、アメリカの大学で近年行なわれたいくつかの研究結果をもとに、「むやみに子どもをほめると、実力の伴わないナルシスト（うぬぼれや自己愛の強い人）を育てることになりかねない」といっています（『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワンより）。

ただし、ほめることに効果がないわけではなく、大事なのはその「ほめ方」だといいます。効果的に子どもをほめるにはどうすればよいでしょうか？

●【その1】すぐにほめる

行動主義心理学の学習へのアプローチで「即時確認の原理」という考え方があります。ほめるにしても注意するにしても「即時」が大事だということです。やったことがすぐに認められるとうれしいのは、意識がいま、そこにあるからです。

●【その2】能力より、努力をほめる

コロンビア大学の心理学者、クラウディア・ミューラー教授とキャロル・ドゥエック教授は、「ほめ方」に関して、小学5年生400人を対象に実験を行いました。

それによると、テストの結果がよかったときに「あなたは頭がいいのね」と言われたグループはその後の成績が下がり、「あなたはよくがんばったわね」と言われたグループは成績を伸ばす傾向がありました。

また、「努力」より「能力」をほめられた子は、難題に直面したときにすぐにあきらめる傾向があり、成績へのプレッシャーから自分の成績に関してウソをつく傾向も高いことがわかりました。

一方、努力をほめられた子は、悪い成績をとっても自分の能力のせいではなく「努力が足りないからだ」と思い、難題に挑戦し続けるということもわかりました。

●【その3】過去と現在をくらべる

東大合格者数日本一の開成中学・高校の柳沢幸雄前校長は、「子どもの成長を過去と現在で比較すれば、いくらでもほめるポイントが見つかる」といい、これを「垂直比較」と呼んでいます。自己肯定感を高めるためにも、その子自身の成長を垂直比較することが大切だといっています。

勉強、受験に関する格言

１　「もっと勉強しておけばよかった・・・」という話は良く聞くが、勉強して後悔したという話は聞いたことがない

２　努力にかなう天才なし

３　やる気が出るまで待っていてはいけない。まず行動を起こすことだ

４　夢は逃げない。逃げるのはいつも自分

５　10時間勉強はすごいけどまず1日10分勉強から始める

６　いま勉強してつらいのは高校に入るまで、勉強しなかったことでつらいのは死ぬまで

７　やらないで後悔するな！やってから後悔しろ

８　できない理由をさがすな、できない理由はいくらでもある

ホームページを適宜更新中！！